

英文学科 PAL (Peer Assisted Learning) プログラム [2011 年度]

背景・目的

学生の多様化とともに、レベルに応じた学習支援が求められる昨今において、本学英文学科では、カリキュラム内の教育運営上の工夫に加え、課外教育支援の強化をはかり、PAL プログラムを 2010 年度より導入した。

PAL は、学習指導において、教員が直接それにあたるのではなく、“Peer(仲間)” が学習支援にあたり、上位レベルの学生が下位レベルの学生の支援を担当し、基礎学力を身につけさせ、高等教育レベルに結びつけていくことを目的としたものである。本学科においては、卒業生（本学修士課程修了者）が支援にあたった。これにより、学年を超えた交流やつながりが形成され、年齢や立場が近いことにより、質問や相談がしやすい環境ができる。また、支援にあたり、同じ大学の学生経験から、大学生活の状況を把握した上でのより身近な指導が可能である。学習支援者にとっても、学習指導の実践の場として多くの経験を積むことが可能となる。この学習支援者が、教員と、指導法、教材などを相談して決め、現場での状況を報告しながら運営し、学生、学習支援者、教員が連携をとるかたちで実施するというものである。

実施内容

2008 年度から 1 年生を対象に実施している英語基礎力テスト：Achievement Test (AT)があり、その不合格者に対する学習支援を、昨年度より PAL プログラムで行ったが、それが非常に効果的であったことと、基礎力のさらなる強化も求められることから、本年度より、2 年生にも対象を広げた。1 年生対象を AT1、2 年生対象を AT2 として、その合格を目指すことにより、段

階的に実力を上げていくことを目標とした。

| | AT 1 | AT2 |
|-------------|------|-----|
| 不合格者数 | 41 | 56 |
| 不合格者の割合 (%) | 44% | 47% |

上記は 2011 年度の結果で、不合格の学生を対象に、さらにレベル別小グループに分け、以下のような人数構成で PAL プログラムを行った。

| | AT1 | AT2 |
|-------------|-----|-----|
| Study Group | 学生数 | 学生数 |
| A | 25 | 23 |
| B | 15 | 23 |
| C | X | 10 |

結果及び考察

週 1 回 80 分 5 回の勉強会を行い再試験に挑んだ。再試でも合格点に達しなかった学生には、さらに勉強会を行い、再々試験を実施した。結果は以下の通りである。

| | AT1 | | AT2 | |
|-----|-----------|------------|-----------|------------|
| | 再試 Nov | 再々試 Dec | 再試 Dec | 再々試 Jan |
| 合格 | 28 | 8 | 48 | 6 |
| 不合格 | 9 | 2 | 3 | 0 |

[未受験者:AT1,Nov=4,Dec=3,AT2 Dec=5, Jan=2]

2 年生は、最終的には全員合格し、1 年生は 2 名が再々試不合格となったが、数点の不足であったので、個別に補習をし、一定の理解を確認したうえで「合格」とした。

PAL を通して、単に基礎力を養うだけでなく、支援者が根気強く指導にあたり、受講者も学習を積み重ねたことが、合格時にかなりの達成感を持たせることに繋がったようである。次年度においても継続し、学生の英語基礎力の向上に繋げ、カリキュラム内授業との連携もとりながら、教育運営にさらなる厚みを加えていきたい。